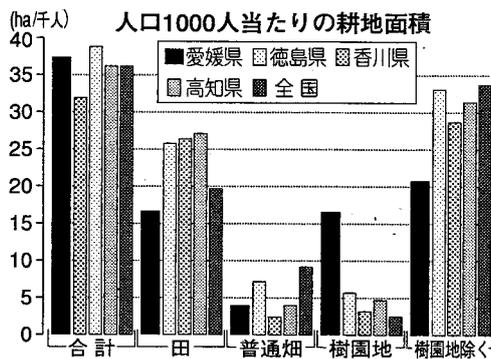


農林水産省集計のデータによれば、愛媛県には5万5000畝の耕地があります。これは県土の約1割に相当します。雇用の受け皿という点を含め一次産業への期待が大変高まっていますので、愛媛の耕地面積の特徴について考えてみます。

耕地は、田、普通畑、樹園地及び牧草地に分類されますが、愛媛県の場合は田と樹園地が主体です。四国4県の比較では、田や普通畑は他県と同程度ですが、有数のかんきつ類産地であるだけに樹園



田畑増やす必要も

地が大きく、総面積では他の3県を引き離しています。愛媛県の次は香川県で3万2000畝です。

次に、耕地面積の多寡を人口あたり面積という観点で見てください。人口千人当たりの面積を試算し比較しますと、樹園地は圧倒的に大きいとは言ってもありません。しかしながら、田は他の3県の3分の2程度に過ぎず、普通畑も大きくはなく、樹園地を除いた人口千人当たり面積は21畝と、他の3県及び全国とかなり差があることも分かります。

生産効率は勘案していませんので、単純に断言することはできませんが、県内自給といった角度でみると、特徴である樹園地を維持する一方で、田や畑を増やしていくことも必要になってくると思います。

(日本政策投資銀行松山事務所長・門松功)

ピックアップえひめ

耕地面積の特徴は？

Data